３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp

No.456-457

間伐に取り組んでいるForest Nova

【定例活動報告】小原本陣の森

ここのところ天気が続いているが、今日も秋と冬をつなぐ様相であった。本日は小原地区の活性化協議会の方の協力という立場で９:５０に小原本陣前に集合した。小林幸治氏は帰省中の為、永井正雄さん達が中心となり活動を行った。小原地区の方が８名、緑のダムからはOBで協議会メンバーの斎藤君、川田晃さん、角田さん、小林の４名、計１２名での行動であった。地域の方と交流を深める絶好の機会である。私たち緑のダムチームは、従来より気になっていた孫山山頂手前稜線に横たわる松の樹の巨木を撤去する使命を与えられた。私はチェンソーを担いで現場まで行く担当になった。地元の方は「熊手」で経路に落ちた落葉を掃いてそれぞれが受け持ちの担当をこなされていた。緑のダムチームは先に倒木地点に行き作業するために先に行かせてもらった。径は６０㎝を超える大木で樹齢は６０年くらいであった。３m～４mで４分割し大枝を鋸で落とした。スギと違って硬い木なのでチェンソーから煙が出るほどである。その大松が

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

倒れる時になぎ倒した枝の折れた樹木も処分した。大木は分割しても動かせない重さだった。４人で何とか道横に寄せ、ベンチ風に並べた。そんなことをしてる間に地元の方が戻ってこられたので、一緒に下山した。斎藤君を含む活性化委員の皆さんは昼から会合があるとのことで別れて、緑のダムチームは嵐山に行き、乾燥小屋の屋根貼り作業を行った。ポリカーボネートの波板を並べ、長さ調整を行ったところ、北斜面南斜面とも波板が短いので、垂木をそろえるために切り落とす作業を行い時間内にうまく終了した。松の枝を切り落としていた斎藤君。何をするのかと聞いたところ、枝をナイフで削ぎ落とすとその木片が着火剤になるとのことで、大事そうに持って帰った。地元の方から次のような意見が出た。まず孫山からの景観が悪く相模湖を見ながらの山行が楽しめないので、登山者が少ないのだ。さらに景観の件では高尾山から与瀬に下るルートの景観が悪く、昔は相模湖がきれいに見えたが今は見ることが出来ない。そして登山者に沢山来てもらうためには景観の整備が必要だとの意見にまとまった。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

今月の活動は参加者が少なめだったが、フォレストノバ３名も合流してもらったこともあり、知足の森での間伐を行うことにした。これまで主に広葉樹が中心の森、お寺のすぐ脇の沢沿いのボサ刈りと竹の整理、さらには森全体の調査というのが主な作業内容だった。森全般はやはりスギ、ヒノキは多く、間伐の必要性は感じていたが、なかなか手をつけてこられなかったこともあり、いい機会ととらえ、入り口から入って、まず気になったところの作業とした。

フォレストノバチームと地球環境部チームとわけ、各々作業を始めた。ここも沢沿いの斜面ということでできるだけ、等高線に沿って倒し、その後の処理を楽にしたいという思いはあったが、どうしても倒しやすさ優先となってしまう部分もあった。沢の反対側まで木が倒れてしまうと途中の玉切りが大変になってしまうからだ。またフォレストノバも自分たちだけで間伐するのは初めてということでゆっくりゆっくりと丁寧に作業を行なった。沢に掛かってしまったものは橋としてうまく活用していて楽しそうだった。作業の結果、樹高２０m弱の林木ではあるが１２本間伐し、玉切りまで行えた。かなりの達成感があった。この日は春から参加していた学芸大附属の中学生がおり、感想を寄せてもらったので、次に紹介する。

知足の森から

今月は知足の森での初めての腰をすえての間伐。成果も上々でした。

今回の森林伐採は４度目となるが、森に行く度に環境に対する気持ちがだんだんと積極的になってきていると思う。初めて森に行った際にはなぜ環境のためにこのようなことをしなければいけないのかと感じていた。しかし、いざ森に入って木を伐採してみると、森ならではの落ち着く感じや、生物がたくさんいて水が流れている様子を見ると、環境に対して興味がわいてきた。課外授業のみならず、学校や、家でも環境に対する自主学習や、調べ学習を行い知識も深めることができてさらに良い形で意欲に結び付けることができた。今では木を切る時に、その木が育ってきた年月を思いながら１本１本気持ちを込めて切っている。道具を持った時、雰囲気も最初とは違い、ワクワクするものとなった。森での活動にも自ら参加することができている。環境を守っていく上で僕たちのような若い世代が積極的に考えて、行動することが必要となってくるであろう。そのような中で環境に対する気持ちをこの活動を通して育むことができたということに大きな喜びを感じている。

大西　尚典（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

現在の勤務校になってから強く感じるのはやはり、活動を重ねることに意義があるということである。そしてそれを中学生たちに感じてもらうことだと思う。これまでは部活動という形である程度、こういう

活動が好きな子どもたちがある意味「自動的」に参加する傾向があったが、本校生徒のように、きっかけは授業だったかもしれないが、活動を積み重ねるなかで自分の気持ちややりがいに気づいていく、ということが重要だと思い始めている。また、そのための仕組み、仕掛けづくりの重要さも同時に強く感じている。

宮村　連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】
相模湖・嵐山の森

雨の予報であったが、電車から冠雪の富士山を眺めることができる晴天であった。森林整備班は、川田晃氏、石井氏、岡田氏、桜井先生、小林の5名の参加があった。午前中は水源までの経路の整備に当たった。前日の豪雨にも関わらず、林内歩道の路面はしっかり固定された状態をキープしていた。林内の笹や下草が1メートル弱に育っているが他の植物の植生に影響がないため触らない方が良いとの桜井先生の助言もあり、目立つものを刈るだけで良くとても良い林層になってきたと感じた。昼食時はカドヤの野菜スープが出たが、秋野菜が新鮮なこともあってとても美味しく頂いた。終わってみるとスープ鍋が完璧に空になっていた。

石井さんが畑から収穫した山芋、ヤーコン、サツマイモ、ジャガイモ、ダイコンなどを袋に分けて持ってきて、野菜の販売が始まった。そのうち青空市場が立つのではと冗談もでた。

午後から、宮村先生率いる地球環境部の作業に加わり、玉切り、枝払い、皮むきなどを手伝った。その後、乾燥小屋屋根にポリカーボネートの波板を貼る準備のため、原田先生が近所のホームセンターで波板を購入してこられたので、作業手順や寸法どりを行って次回の作業の準備を完了した。

材木運搬機材として、(有)ラボコスタ開発の「マッシュプーリー」なる機器を緑のダムに常設し間伐モデルエリアとして、代表の香取氏からお借りすることになったことを発表した。そのための作業資格取得を6名～10名選別し、1月～2月に研修を行う必要があること等を伝えた。当会としては、特に学生に対する材の搬出教育の一環として体験学校の一教科になるとの判断で導入したものでである。「引っ張りダコ」や「カケヤ」「ロープ」等での搬出が主であるが、転んでけがをしたり、足を捻挫したりという危険リスクを回避するためにもNPOなどでは積極的に利用される器具と考えている。（報告：小林　照夫）

晴天を満喫しての定例活動

２回続けての雨の鬱憤をはらすかのように、どの班も夢中で作業に集中

今回の活動は天気に恵まれた。午前中には間伐、午後はモマハウス周辺の階段作りを行った。間伐は地球環境部との合同作業となった。フォレストクラスの指導の下作業はスムーズにすすんだ。今回は掛かり木がなかったため楽な作業だった。切った木は森に置いてくることになったが前に作った乾燥小屋まで運ぶのは大変だなあと思った。今回作業した場所が「望星の森」ということを初めて知った。この場所はか

なり間伐が進んでいると思ったが、間伐がすんだあとは何をするのか自分はよくわかっていないことに気づいた。これから勉強しなくてはならない。
　今回は遅刻してしまった。前日自転車のカギをなくしたことにきづいたのは出かけるときであった。バスがなかったため駅まで徒歩で行くことになってしまった。今度から気を付けたい。モマハウス近くに作った階段はなかなか立派なものができたと思う。ぜひ利用していただきたい。（報告：五味　輝史）

　地球環境部は今月も間伐を行った。フォレストノバも手伝ってもらえることになり、地球環境部慣れているチーム、学芸大附属小金井中慣れていないチーム、フォレストノバ主体チームとなった。このように作業ができるのもフォレストクラスの二藤さんが指導してくれるからである。そしてその３本が無事に倒れ（狙ったところが同じだったので３本とも＊印のようになってしまったのはご愛嬌）、いよいよ本番の電話線周り。３本のうち１本はこの本番の木を倒しやすくするために切ったものだ。チルホールを設置し、いざ切り始めるというところまでは中学生も慣れたもの。ロープ、滑車、スリングを使い分けることはできていた。チルホールの練習が主なので、伐倒自体は私のチェーンソーで行った。受け口を切る。予定通り（自分のなかで）、しかし、二藤さんからはちょい右を切り足すようにアドバイス。この細かいセンスはまだまだ身に付いていない。そして追い口をちょっと入れたところでストップがかかる。これも自分には分かっていないタイミング。チルホールを引き、電話線側にもたれていた木が垂直になってきたところでストップ。これはすぐに意味がわかる。そして、ちょっとだけ追い口を足す。これがまだ謎。チルホールで引ききれなくなるから、ということだがまだ？？？という感じ。そして、いつもなら追い口を追加し、倒れ始めて「完成」のはずが、ここで私の出番は終了。少しずつチルホールのみで引く。ゆっくゆっくり倒れはじめ、ほぼ狙い通りに倒れた。最初のちょっと右を切り足すのと、チルホールの引くニュアンスが合致して、狙い通りに倒れるという、もはや神業にしか見えない指導。まだまだ勉強が足りないことを実感、そして間伐の面白さ、奥深さも。最後に参加した生徒の感想をご紹介します。（報告：宮村　連理）

　僕達が活動のテーマとしている”照度“を測るには、第一条件として晴れているということが大切である。しかしその日は天気予報では、曇りの予定だった。当日、天気予報ははずれ、快晴であった。計測日和である。今まで計測しようと思っても、いつも雨や曇りであったので今までになく良い日だった。しかし裏を返せば、今まで計測を一度もしたことがなかったのだ。
　森の中と、外で同じ時間に計測するということをここではする。勿論大変なことであった。しかし成し遂げることができた。
　こんな一日の活動から分かったことは、いつもなんとなく暗いとかなんとなく明るいと言ってきたことを計測することによりデータにし、目で見える様にしたことにより、どれ位の違いが出ているのかということを知ることができた。今回のデータをまとめて、次に繋げたいと思った。
福田　将紀（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

【若者の森づくり】ForestClass

　ForesTo Classでは入山に続き永井さんのお持ちの森を整備させていただく事になりました。

　新たな活動の場は、相模湖インター出口横にあり広くはありません。作業自体は1、2日間ほどで終わる見立てです。ただ、インター出口の道路がすぐ横に通っているため作業は万全を期して行う必要があります。
　倒す方向を慎重に見極め、チルホールを複数台使用し、楔などを使いながら確実に伐倒していきます。倒した際はねた枝などが通行車両に当たる事のないようにする配慮も行う予定です。

　「森と暮らす」を団体名に掲げ、より付加価値のある森林利用を模索することが目的である我々ですが、だからこそこうした現場での作業の積み重ねが光る時が来るでしょう。

今回この様に新たなフィールドで活動することができるのも、緑のダムのサポートと入山での作業を永井さんに評価して頂けた結果と考え、
このフィールドでの活動を無事に終えることで実績と経験を得てまた一歩前進していきたいと思います。

加藤　浩晃（Forest Class）

【若者の森づくり】
地球環境部

１０月末から１１月にかけて、積み木イベントを行いました。まずは１０月末に行われた学芸大附属小金井中の学芸発表会で行った積み木のアンコールワットを報告します。総合学習の一環で取り組んできた彼らのひとつの成果発表会、という位置づけで、活動テーマごとにポスターを作り、森について取り組んだことを発表する時間となりました。

今回の学芸発表会の教室展示では、テーマをまとめたポスターと３万個の積み木を使ったアンコールワットの展示をした。アンコールワットの製作は何週間も前から始め、教室の使い方や細かい設計まで詳しく考えた。積み木をテーマとしている人たちを中心に休み時間などに集まり、無事期日までに完成させることが出来た。当日作品をみて驚く姿をたくさん見ることができたので良かったと思う。
ポスター制作では予習したことや今まで森に行き得た知識を活かし、テーマごとのチームで何も知らない人に伝えるにはどうすればよいのか試行錯誤し合いながらテーマをまとめた。短い期間の中で、写真などをうまく利用し満足できるものを作成できたので良かったと思う。

課題研究という活動の中で一番大きな行事を終えたがまだ各方面で活動することがあると思う。今回の経験から短い期間に集中して行うのが大切であることが分かったので、これからの活動に活かしていきたい。

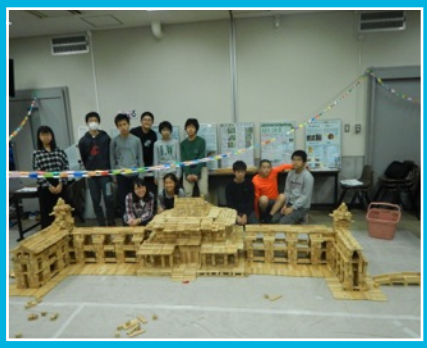
押木　七海
（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

ほとんどの展示が良くも悪くも前日にわっと作られる本校の学芸発表会でこの積み木のアンコールワットだけは私の管理下にある理科室を締め切り、少しずつ作業をしてきました。なかなかコツコツと計画的に作業をして、少しずつ積み重ねて、みなで協力して、大きな達成感を得る、という経験の少ない本校生徒にとって、刺激的な後味を与えたのではないかと思います。そしてそのコツコツと、地味に積み重ねているものこそが森林整備であり、次の春に下草がわっと増えていた姿に感動する生徒の表情が楽しみです。能力的には高いセンスを持っている彼らがそんな森にどんな感想をもつのか、そしてどう活動を続けていくのか（いかないのか）、今から楽しみです。
次にこのイベントはこの積み木イベントの片付けと並行して行われるほど間がありませんでしたが、学芸大の学祭、小金井祭に積み木で出展しました。こちらは同大の環境教育研究センターでの環境リーダー養成講座を受講している学生が主体となり、中高生が手伝う形を取りました。その学生の報告を紹介します。

宮村　連理（本会、副理事長）

「つみきでなにができるかな」

11月の3日～5日の3日間、東京学芸大学で行った小金井祭で、積み木を扱った企画「つみきでなにができるかな」という出し物をしました。日本の木から作られた積み木を使い、2日目にはタージマハルを、3日目には平等院鳳凰堂を、お越しいただいた皆さんで製作しました。



3種類の小さな積み木から出来上がった作品のクオリティーの高さに、皆驚きと大きな達成感を感じ、写真撮影もやまないほどでした。

中には、まだ2歳ほどの小さなお子様も遊びに来てくださり、自分と同じくらいの高さにまで積み木を上に上にと積んでいる子もいました。人それぞれ、楽しみ方も積み木の触れ合い方も違いましたが、皆こんなにも積み木に夢中になったのは初めてという様子で、楽しんでいただけたように感じます。

今回使ったのは、日本の森の木を切って作った積み木。間伐材といって、手入れをした際に出る材を有効活用したものであります。森の世界では、今このような間伐材が多く残されており問題になっています。少しでも残されている木々の量を減らし有効に利用できるよう、今回のような積み木の企画を外に広げていけたらと思います。

福谷　茉裕子
（東京学芸大学　A類環境教育2年）

【若者の森づくり】
Forest Nova

今回の、ネイチャーフェスティバルの準備では、初めは何をすればいいか分からなかったが、ネイチャーフェスティバルの役員の皆さんに色々と教えてもらい、様々なことを話し合い、自分達が何をやるべきかが分かった。ネイチャーフェスティバルに今年はノバ主力メンバー全員で参加した。内容はキーホルダーの販売や木工作品作り、のこ引き体験だ。のこ引き体験以外は有料で行った。

会場はとても小さな公園だった、正直、大丈夫だろうかと不安になった。ノバの場所には、最初、机などの物品がおかれておらず場所がわからなかった。そんな不安いっぱいの気持ちの中、ネイチャーフェスティバルは始まった。最初はお客さんが一人も来ず、終わるまでこれだろうかと感じた。しかし、一人の親子がのこ引き体験を行ったとき、すべてが変わった。その親子に続くように多くの親子が押し掛けてきた。のこ引きだけではなく、木工の方にも多くの親子が来た。

木工のブルーシートにはすし詰め状態で親子が作業していた。のこ引きには絶えず列ができていた。６０個ほど用意した木工用の丸板が全部なくなるほどだった。そのためのこ引き用の木まで材料にすることになったがそれも長くはもたず結局祭りの終了の３時より前に閉めることになった。

今回は予想よりも多くの人が来てしまった場合の想定を行っていなかったのが反省点だ。また、今回のネイチャーフェスティバルに参加して、何をどうしたいか、自分達が何をやりたいのかと分かってきた気がする。

山口　拓海（Forest Nova）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。